

令和3年度（2021年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

刑 法

B日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和3年度（2021年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

- (1) 正当防衛における積極的加害意思
- (2) 実行の着手時期

問題2（15点）

次の事例におけるXの罪責を論じなさい（Aの罪責を論じる必要はない）。ただし、業務妨害罪および特別法違反の点は論じる必要はない。

Xは、大学時代の先輩であるAから、「実は警察から逃げている。先週市内であった殺人事件の容疑者だと思われているらしい。だが、神に誓って俺じゃない。でも警察は言うことなんか聞いてくれないだろうから、どうにか助けてくれないだろうか」と電話で告げられた。XはAを心から尊敬しており、「先輩がそんな人じゃないのは僕が一番よくわかっています。わかりました。何とかしましょう」と応えた。

翌日、Xは、自身を訪ねてAの所在を聞いてきた警察官Bに対し、「A先輩なら長崎に長期出張で、来月にならないと帰って来られないと聞いています」と虚偽の内容を話した。

しかし、Aは前記殺人事件の真犯人であった。XがBに虚偽の内容を話した時点で、警察は捜査対象をほぼAに絞り込んでいたが、Aが指名手配されているなどの事実はなく、Bもあくまで数ある可能性のうちの1つとしてAの所在をXに尋ねている。

以上